

ゆりかごほいくえん園だより



2019.7.1

2期(6~9月)のねらい からだづくり活動を通して子ども関係の質を高めよう

先月に行われたバザー、お天気が心配でしたがたくさんの方に来ていただきました。園庭をいつものように使えなかつた分、園舎内は行きかうのにも苦勞するほどの賑わいでしたが、皆様いかがでしたか? 疲勞具合が心地よい程度で済んでいることを願います。

今から46年前、園舎建設のために多くの方の協力を得て、現在のゆりかご保育園が誕生しました。その時の借金を、6月と10月に、年2回のバザーをして返済したのです。18年かかりました。当時は1回のバザーの売り上げ目標が50万円という金額で、皆必死でした。借金返済後は大人も子どもも楽しめるバザーにしようと形を変え、年1回の開催にし、目標金額も低くしたのです。

民主的な運営をしている園の園長先生から聞いた話です。バザーなど、保護者と共に開催する行事は、ずい分前に無くしたそうです。保護者も職員も忙しく、若い職員には保育を伝えていくのに精いっぱい。休みの日を割いてまで行事を続けていくことができなくなつたそうです。

保護者の就労や保育が長時間化、過密化し、大人たちはとても疲れています。この話を聞いた時、社会も時代も変わってきているのだから、ゆりかごが大切にしてきたことを続ける意義はあるけれど、形を変えていてもいいのかなと思いました。バザーをするかしないかも含めて。

でも、子どもたちが楽しんでいる様子や、地域の方の満足そうな顔を見て、元気をもらえました。卒園児や保護者OB、旧職員に会えた喜びもひとしおです。多くの方々の支えがあってゆりかごが存在しているのだと、つくづく思いました。

そして、わたあめを売るお母さんの傍らにいた3歳児のDくん「みんなかいで楽しいね」ということばを耳にした時は、迷いも疲れも吹きとびました。子どもたちの笑顔のために大人が力を合わせることは、ゆりかごが大切にしてきたことです。

今月は夏まつりがあります。利益よりも、子どもたちの笑顔を重視する夏まつりになつてほしいと思います。